

# 未来へ通じる世界の扉

今年度から始まった国際交流事業の一環で、4月9日から13日までの間、ニュージーランド・ティアナウのフィヨードランドカレッジに通う15歳から17歳の生徒ら25人が多古町を訪れ、ホームステイなどで交流を図りました。

この事業は、本格的に英語を学び始める中学生ごろから「生きた英語」を体験することで、国際感覚を身に付け、コミュニケーションのできる国際人の育成を目的としています。

言葉や文化は違っても「友だちになりたい」という気持ちがあれば、誰にでもできる交流。この8月には、多古中学校の生徒がニュージーランドへ派遣されます。



## information

### ニュージーランドってどんな国？

面積	27万534km <sup>2</sup> (日本の約4分の3)
人口	415万人 (2006年9月、NZ統計局)
首都	ウェリントン
民族	アングロサクソン系および先住民マオリ系
言語	英語
時差	日本より3時間早い。夏(10月上旬~3月中旬)は4時間差。
気候	平地では年間を通じ寒暖の差が小さく温暖。ただし、一日の気温変化は激しい。
政体	イギリス連邦に所属するが、独立した立憲君主国。
主要産業	畜産を中心とする農業。



**桜が咲く中、初めて一緒に登校**  
まだまだちょっぴり緊張気味です



**歓迎会では先住民の踊り“HAKA”を披露**  
その気迫に会場は静まり返ります

## ホストファミリー日記

DIARY  
加藤好美さん  
(柏熊)



**4月9日(月)**  
海外生活に「あこがれ」を持っている二人の娘がいるので、ホームステイを受け入れることに不安はありませんでした。わが家は双子の男の子を受け入れることになっていました。二人は気さくで陽気な子。グレイムは日本語を3年習っている、マークは1日だけだとか…。二人とも日本語を一生懸命使い、勉強熱心が伝わってきました。英語の発音を教えてもらい、家族一同で「リアリー」本当の発音を何回も言ったりして…。食事も好き嫌いがなくて、二人ともおほしの使い方が上手なのでびっくり。義父の handmade 披露もあり、笑いっぱい初日となりました。

### 4月10日(火)

疲れていると思ったら、約束の時間より1時間も早く起きてきたのでビックリ！朝食はパンを用意したが、納豆や海苔にもチャレンジしました。グレイムは洗いや顔、マークは「おいしい」と手をペタペタにして食べました。自宅では朝食を簡単に済ませようで「僕たちは起きて15分で全てを済ませて学校へ行っています」と。夕方迎えに行く、久賀小や多古中でゲームやバスケットボールの試合をして楽しみ、どこへ行っても大歓迎で、手を振られたり、握手を求められたり、サインを頼まれたりと「僕たちは有名でも何でもないのになあ」と驚いたようでした。夕食は外食にして、刺身・とんかつ・焼肉など、色々な食べ物をおいしく食べ、プリクラも撮りに行きました。今日は「マジで」を完璧にマスター。ナイスなタイミングで表情豊かに「マジで」と言われると本当に面白かったです。



**久賀小でのサイン会**  
「わあー」と駆け寄る子どもたちに、思わず笑顔がこぼれます



**ホームステイ先で迎える最初の夜**  
「カンパイ!!!」  
夜の交流はお互いを知る絶好のチャンスです